

## 九州大学に於けるより効果的な中国語２年次教育に向けて：「中国語Ⅰ・Ⅱ」で使用する教科書２種の学習項目比較

川澄，哲也  
九州大学大学院言語文化研究院：助教

<https://doi.org/10.15017/7318907>

---

出版情報：言語文化論究. 53, pp.45-51, 2024-11-05. Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University  
バージョン：  
権利関係：



# 九州大学に於けるより効果的な中国語2年次教育に向けて

## ——「中国語Ⅰ・Ⅱ」で使用する教科書2種の学習項目比較——

川 澄 哲 也

### 1 はじめに

2024年度現在、九州大学の言語文化科目「中国語Ⅰ・Ⅱ」では、担当教員の裁量により、使用する教科書を『メディア版 一年生のころ』（相原茂・陳淑梅・飯田敦子著、朝日出版社、以下『1年生』）と『改訂版 大学生のための初級中国語24回』（杉野元子・黄漢青著、白帝社、以下『24回』）の2種類から選択している。そのため、「中国語Ⅰ・Ⅱ」に続く科目（以下「2年次教育<sup>1)</sup>」）では、異なる教科書で学んできた学生が1クラス内に混在することになり得る。このようなクラスを円滑に運営するために、2年次教育まで担当する教員は、上記2種の教科書では如何なる知識の違いが生じ得るのかを把握していることが望ましい。しかしながら、「中国語Ⅰ・Ⅱ」においては一般に、同一教員は複数クラスにわたって同一教科書を使用するため、他方の教科書については必ずしも詳細を知り得ていないように見受けられた。

このような状況に鑑み、筆者は2023年度「中国語Ⅰ・Ⅱ」より、担当する2クラスで上記2種の教科書を使い分け、双方の内容を比較してみることにした。本稿は併用1年目を終えた2023年度末時点での簡単な報告である。以下では、両教科書が収録する語句と文法事項の共通点および相違点を列挙していく。芸のない進め方ではあるが、2年次教育の開始時点で想定される学生の共有知識および知識量の多寡を端的に示すことができるはずである。

なお本稿は両教科書の「優劣」を論じるものではないことを予めお断りしておく<sup>2)</sup>。

### 2 語句の比較

#### 2.1 両書ともが扱う語句

まず本節では、『1年生』と『24回』の両書に収録されている語句をピンイン順に列挙する<sup>3)</sup>。複数の用法をもつ要素については、そのいずれが出現しているのかが明確になるように、品詞や語義等、区別に必要な情報を角括弧内に付記する<sup>4)</sup>。本節に挙がる300余りの語句は、2年次教育の開始時において、すべての受講生が学習済みであると想定してよいものである。

【a】矮

【b】八 把[量詞・介詞] 吧 爸爸 百 半 报 杯 本 比 不[副詞] 不客气 不太

【c】菜 茶 差 唱 吃 抽烟 出 从

【d】打 大 打工 带 打算[動詞] 大学 当然 到[動詞] 的 得[様態補語] 等 点 电话

- 电脑 电视 电影 弟弟 懂 东西 都 对不起 多[形容詞・どのくらい] 多大 多少 肚子
- 【e】饿 欸 二 儿子
- 【f】饭 放 非常 飞机 分[時刻・通貨] 分钟
- 【g】干 高 高兴 个 哥哥 给[動詞・介詞] 跟 歌(儿) 公里 公园 工作 贵 贵姓  
过[動詞・助詞]
- 【h】还 还是[接統詞] 汉语 好 号 好吃 好看 号码 喝 和 很 红茶 后边(儿) 后年  
后天 话 回 会[可能]
- 【j】几 家[名詞] 件 见 教 角 叫[称する] 教室 姐姐 近 进 今年 今天 九 酒 就
- 【k】咖啡 开车 开始 看 渴 刻 课本 课文 可以 口 快 块[量詞・通貨] 快要～了
- 【l】来[来る] 老家 姥姥 老师 老爷<sup>5</sup> 了 累 冷 离 里 两 里边(儿) 零 六 礼物
- 【m】吗 妈妈 买 慢 忙 毛 没关系 美国 妹妹 没(有) 面包 明年 明天 名字
- 【n】哪 那[代詞・接統詞] 哪个 那个 奶奶 哪里 那里 那么 难 南京 哪儿 那儿 哪些  
那些 呢[省略疑問・進行] 能 你 年 你好 你们 您 女儿 女朋友
- 【p】旁边(儿) 跑 陪 朋友 便宜 票 漂亮 啤酒 苹果 乒乓球
- 【q】七 千 钱 前边(儿) 前年 前天 请 去 去年
- 【r】让 热 人 日本 日语
- 【s】三 上 上边(儿) 上午 谁 生日 什么 什么时候 十 是 食堂 手表 手机 书 书包  
舒服 水饺(儿) 说 四 岁 岁数
- 【t】她 他 太～了 她们 他们 趟 天 天气 听 图书馆
- 【w】外边(儿) 完 万 网球 玩儿 晚上 为什么 问 问题 我 我们 五
- 【x】下 下边(儿) 想[助動詞] 下午 羡慕 现在 小 小时 写 谢谢 喜欢 姓 星期 休息  
学 学生 学习 学校
- 【y】要[欲しい] 钥匙 也 爷爷 一 一点儿 衣服 已经 英语 音乐 一起 一下 一样 医院  
椅子 用[動詞] 有 右边(儿) 有点儿 元[通貨] 圆珠笔 月 愉快 雨伞
- 【z】在[動詞・介詞・副詞] 再 再见 早上 怎么 怎么样 张 照片 这 这个 这里 这么  
真 真的 这儿 这些 只[副詞] 中国 中午 住[動詞] 准备 桌子 走 最 坐 做 左边  
昨天 作业

## 2.2 『1年生』のみが扱う語句(=『24回』未収録の語句)

続いて本節では、『1年生』のみが収録する語句を列挙する。ここに挙げる約170の語句は、『24回』使用クラス出身の学生は未習である可能性が高い。

- 【a】啊 爱人<sup>6</sup> 哎呀
- 【b】办法 帮 棒 包 薄 毕业 不[助詞(可能補語)] 不错 不得了 不过 不可 不如 不行  
不用
- 【c】差不多 成绩 吃药 初次 船 春假 错
- 【d】打算[名詞] 得[助動詞dei・可能補語] 地方 对[形容詞・介詞] 对了 多[なんと] 独生女  
独生子女
- 【f】法律系 方向 放心 服务员
- 【g】咖喱饭 该 擀 干杯 感冒 刚 刚才 根本 更 刮风 拐 关照 光临

- 【h】还可以 还是[やはり] 孩子 汉堡包 好好儿 好球 好像 欢迎 会[蓋然性・動詞] 回国  
火车
- 【j】及格 极了 捡 见面 介绍 进步 经济系 就是 觉得
- 【k】开 考试 客人 可是 快～了
- 【l】来[すすんで～する] 连～都 练习 旅行
- 【m】麻烦 猫 没意思 门 母亲
- 【n】哪边 那边 男的 男朋友 那样 嗯 念 女的
- 【o】噢
- 【p】爬 皮儿
- 【q】期末 请客 请问 亲眼
- 【r】然后 认识 热情 日文 容易
- 【s】上课 上星期 上学
- 【t】它 太阳 挺 听说 同学 头疼 退
- 【w】往 喂 位 为
- 【x】系 吓 下课 先 想[動詞] 想像 小姐 小笼包 夏天 下星期 下雪 下雨 行 兴趣  
学会
- 【y】呀 演 一[yāo] 要[助動詞] 药 一～就 一般 意大利面 一会儿 一直 应该 英国人  
友谊 有意思 远 原来 愿意
- 【z】怎么了 怎样 站[動詞・名詞] 照 照相机 着[助詞] 这边 正 正好 这星期 这样 枝  
只[量詞] 种[量詞] 中文 字 自己 做饭

### 2.3 『24回』のみが扱う語句(=『1年生』未収録の語句)

続いて本節では『24回』のみが収録する語句を列挙する。前節とは逆に、ここに挙げる語句約180は、『1年生』使用クラスから来た学生は未習であることが予想される。

- 【a】爱好 澳门
- 【b】坂本龙马 棒球 包子 饱<sup>7</sup> 北京<sup>8</sup> 北京烤鸭 背 笔记本<sup>9</sup> 比较 比赛 遍 变化  
便利店 表妹 别 冰箱 病毒 不但～而且…
- 【c】长<sup>10</sup> 长江 超市 炒 炒饭<sup>11</sup> 车票 车站 床 出门 春节 出租车 词典 次
- 【d】打扫 大[年上である] 大巴 蛋糕 但是<sup>12</sup> 大学生 到[介詞<sup>13</sup>・結果補語] 德语 地铁  
地图 地址 电车 电影院 电子词典 丢 对面(儿)
- 【f】发音<sup>14</sup> 法国 法语 饭店 方便 房间 房子<sup>15</sup> 封 复习
- 【g】改天 钢琴 感染 高楼 告诉 公分 公共汽车 公斤 公司职员 购物中心
- 【h】护照 滑雪 画 画儿<sup>16</sup> 黄河
- 【j】机场 机票 记 家[量詞] 家里人 减肥 交通 叫[呼ぶ] 节 结婚
- 【k】课 空调 裤子 快餐店 快乐 矿泉水
- 【l】篮球 历史 凉快 辆 聊天儿<sup>17</sup> 领带 留学生 旅游 律师
- 【m】麻将 毛泽东 马上<sup>18</sup> 美术馆 每天 米[量詞]
- 【n】拿<sup>19</sup> 年纪 牛奶 暖和
- 【p】胖<sup>20</sup> 瓶 普通话

【q】 骑 钱包 巧克力 汽车 起床 裙子

【s】 三明治 上班 上海<sup>21</sup> 身份证 身体 时间 双 刷牙 书店 睡觉 数码相机 说话

【t】 台 台湾 弹 糖 踢 条 跳舞 偷

【w】 外语 晚饭 袜子 乌龙茶<sup>22</sup>

【x】 洗 下个月 香港<sup>23</sup> 相机 小说 西瓜 洗脸 信 新年 信用卡 洗手间 西藏 洗澡

【y】 要[かかる] 要是~(的话), (就)… 一边(儿)~一边(儿)… 一定 一共 一刻钟 一路平安  
银行 医生 用[介詞] 邮局 邮票 游戏 游泳<sup>24</sup> 越来越~<sup>25</sup>

【z】 早饭 着急 找<sup>26</sup> 知道<sup>27</sup> 重<sup>28</sup> 住[結果補語] 祝 自行车 足球 最近

## 2.4 小結 — 語句の比較

以上で見たように、双方の教科書ではともに大よそ500の語句を学ぶ。そのうちの約300は共通している一方で、残りの収録語句は異なっている。2年次教育を担当する場合には、2.2節および2.3節に挙げた語句については学生間に知識差があり得ることを想定されたい。或いは、自身が使用する教科書に収録されない語句は「中国語Ⅰ・Ⅱ」の段階で適宜補充することも望まれる。

## 3 文法項目の比較

### 3.1 両書ともが扱う文法項目

続いて本節では文法項目の比較を行う。語句に比べると教科書間の差異は少ないと言える<sup>29</sup>。いま『24回』の項目名・配列順に従い両書に共通する事項を列举すれば、以下のようになる。

動詞 “是” “吗” 疑問文 名前の尋ね方と答え方 動詞述語文 副詞 “也” と “都”  
 選択疑問文 “呢” 疑問文 指示代詞(1) 「これ, あれ(それ)」 “的” 疑問詞疑問文  
 助動詞 “想” 時点(1) 「今日, 今年」 など<sup>30</sup> 形容詞述語文 反復疑問文 “吧”  
 所有を表す動詞 “有” 量詞 “几” と “多少” 文末の “了” 時点(2) 時刻  
 前置詞 “在”<sup>31</sup> 連動文 時点(3) 年月日, 曜日 疑問詞 “怎么”  
 指示代詞(2) 「ここ, あそこ(そこ)」 方位詞<sup>32</sup> 存在を表す動詞 “在” と “有”  
 動詞の後の “了” 動詞の重ね型 前置詞 “给” 経験の “过” 前置詞 “跟”<sup>33</sup>  
 時間量<sup>34</sup> 時間量補語<sup>35</sup> 前置詞 “从” “离”<sup>36</sup> 助動詞 “会” 助動詞 “能”  
 主述述語文 比較 “多” + 形容詞 年齢の尋ね方 “是~的” 構文 100以上の数  
 金額の言い方 状態補語<sup>37</sup> 二重目的語 “有点儿” 方向補語 進行の “在”  
 結果補語<sup>38</sup> 処置文<sup>39</sup> 助動詞 “可以” 使役文<sup>40</sup> 近い未来<sup>41</sup>

### 3.2 両書で異同がある文法項目

続いて、両教科書で扱い方に違いがある項目を挙げる。『24回』のみが扱い、『1年生』には挙がらない文法項目は「動作量補語」「禁止」「受け身文」「複文<sup>42</sup>」の4つである。一方『1年生』のみが扱う文法項目は「“一点儿也”+否定形」「V着」「“好”+V」「可能補語<sup>43</sup>」「疑問詞の不定用法」「程度補語」「存現文」の7つである。これらについて2年次教育で取り上げる機会があれば、知識がゼロの学生がいることを想定し、丁寧に導入する必要があるだろう。

また、3.1節に挙がる項目であっても、扱い方に大きい差異がある場合には、やはり配慮が必要

である。その最たるものは「方向補語」で、『24回』ではこれを立項しているとは言え、実際に扱うのは単純方向補語のうちの“来”“去”のみである。一方『1年生』では複合方向補語まで網羅しており、学びの内容は大きく異なる。

上述した諸点以外に、介詞や助動詞といった機能語の学習範囲についても両書で異なるところがあるが、これらについては2.2-2.3節を中心に既述したのでここでは繰り返さない。

#### 4 おわりに

以上本稿では、現在九州大学の「中国語Ⅰ・Ⅱ」で使用されている2種類の教科書の学習項目を比較した。本報告を通して、2年次教育において簡単な復習のみで通過してよい事項と丁寧に導入する必要がある事項を知っておけば、授業をより効率的・効果的なものにするのが可能になるだろう。

#### 注

- 1 実際には一部、1年次の後期に「中国語Ⅱ」と並行して受講が可能な科目もあるが、大部分の学生はこれらを2年次以降に受講するため、本稿ではこのように称しておく。
- 2 但し一点のみ、『24回』を使用していて特に困惑したことを共有しておきたい。それは、たとえば版が同じであっても、刷数が異なると内容に違いがあり得る点である。例えば「2022年3月26日第4刷」と「2023年3月26日第5刷」を比べると、以下の9箇所の違いが見出された：
 

p. 52「新出単語」、p. 56「新出単語」、p. 80「新出単語」、p. 88「新出単語」、p. 100「新出単語」、p. 104「新出単語」、p. 105「ドリル(2)-3」、p. 107「補足資料2」、p. 110～の「語句索引」の並び。

今後このような同一版内での改筆はあり得、古い刷数のものを使用し続けた場合、学生とのやり取りに齟齬が生じる事態も発生し得る（実際に筆者は2023年度の授業で2回、そのような場面があった）。『24回』を使用する場合は毎年献本を依頼し、手元に最新の刷数のものを有しておくことをおすすめする。
- 3 両書冒頭（『1年生』p. 29以前、『24回』p. 25以前）の発音編等に例示されている語句については、必ずしも語義・語法を覚える目的のものではないため、本稿では収録語句とは見なさず、必要に応じて注で言及するに留める。また『1年生』には「マンドラ・ワールド」「散文」といった項目も設けられているが、これらは発展学習用の（授業外）教材であるため、当該2項目のみに出現する語句も本稿では未収録扱いとし、適宜注で触れるだけにする。
- 4 但し複数の用法を有する要素でも、それらが初級段階で共起する可能性が低い場合は一一付記しない。例えば“的”には助詞としての用法(de)に加えて名詞「まと」を表す用法(di)もあるが、後者は初級段階で出現する可能性が低い。そのため、前者であることを明示する目的でわざわざ“的[助詞]”と書くことはしない。
- 5 いずれの教科書とも、一般には“姥爷”と表記する「母方の祖父」の意味で現れる。
- 6 『24回』でもp. 9の日中同形異義語の一例としては挙がっている。
- 7 『1年生』p. 125「マンドラ・ワールド『基本形容詞その(8)』」には含まれる。
- 8 『1年生』p. 23「声調の組合せ」、p. 55「総合練習」内には見られる。

- 9 『1年生』 p. 136、第12課の「散文」に“笔记本电脑”という形では挙げられている。
- 10 『1年生』 p. 35 「マンダラ・ワールド『基本形容詞その(1)』」には含まれる。
- 11 『1年生』 p. 19 「DRILL」の問題6には含まれている。
- 12 『1年生』 p. 136、第10課の「散文」には含まれている。
- 13 但し『1年生』 p. 74の動詞“到”の箇所には、“到朋友家去”“到这儿来”という、介詞“到”の用例が挙げられている。
- 14 『1年生』では p. 118、項目3の「ドリル」において補充されている。
- 15 『1年生』 p. 93 「マンダラ・ワールド『いろいろな“子” zi』」には含まれる。
- 16 『1年生』では p. 22の「r化」の項に例として挙げられている。
- 17 『1年生』 p. 136、第12課の「散文」には含まれている。
- 18 『1年生』 p. 136、第12課の「散文」には含まれている。
- 19 『1年生』 p. 136、第12課の「散文」には含まれている。
- 20 『1年生』 p. 87 「マンダラ・ワールド『基本形容詞その(5)』」には含まれる。
- 21 『1年生』 p. 55 「総合練習」内には見られる。
- 22 『1年生』 p. 19 「DRILL」の問題6には含まれている。
- 23 『1年生』 p. 19 「DRILL」の問題6には含まれている。
- 24 『1年生』 p. 79、「マンダラ・ワールド『いろいろな“池” chi』」に“游泳池”という形では挙げられている。
- 25 『1年生』 p. 136、第11課の「散文」には含まれている。
- 26 『1年生』 p. 136、第9課の「散文」には含まれている。但し『24回』では「探す」、『1年生』では「訪ねる」の意味で学ぶという違いがある。
- 27 『1年生』 p. 135、第7課の「散文」には含まれている。
- 28 『1年生』 p. 61 「マンダラ・ワールド『基本形容詞その(3)』」には含まれる。
- 29 但し項目の名称については両書で違いも見られるため、2年次教育において多少配慮が必要である。主だった名称の違いについては注にて適宜言及する。
- 30 『1年生』では「時点」という用語は使っておらず、「年月日」「時刻」のように称する。
- 31 『1年生』は「前置詞」のことを一貫して「介詞」と称する。
- 32 『1年生』では「場所を表すことば」と称する。
- 33 『1年生』では“跟”を学習項目としては立てないが、第7課の課文内に含まれている。
- 34 『1年生』では「時量」と称する。
- 35 『1年生』では「時量」を補語の一種とは見なさない立場をとる。但し時量を動詞に後置する用法自体は学ぶので、本稿では共通の学習項目として挙げている。
- 36 『24回』では同時に前置詞“到”も扱うが、これは2,3節で触れたとおり『1年生』には出てこない。
- 37 『1年生』は、より一般的な項目名「様態補語」を用いる。
- 38 『24回』では“完・好・懂・到・住・饱”の6種を扱うのに対し、『1年生』が取り上げるのは“完・好・懂・错”の4種である。
- 39 『1年生』では“把” bǎ 構文」と称する。
- 40 両書とも“让”を学ぶのみで、“叫”や“使”は扱わない。
- 41 2.1-2.2節からわかることではあるが、両書で共通する近未来の表現は“快要～了”である。

『1年生』には、これに加えて“快～了”も現れる。

- 42 具体的には累加の“不但～，而且…”、並列の“一边(儿)～，一边(儿)…”、仮定の“要是～(的话)，(就)…”を学ぶ。やや話が逸れるが、『1年生』では仮定の表現として“你不去，多没意思。”(p. 109)のようないわゆる「意合法」による言い回しが現れる。この「意合法」という文法はやや専門的で、従来は共通教育レベルで触れられることは稀であった。しかし近年、一般向けの文法書の中にもこれに言及するものが現れた(丸尾・李 2022: 350)。「意合法こそ中国語の文法にほかならない」(張 2023)とも言われる文法事項であるため、今後は共通教育の段階で(教養として)もっと言及されてよいかも知れない。
- 43 但し『1年生』でも、方向補語が関わる可能補語は扱われない。

### 言 及 文 献

丸尾誠・李軼倫(2022)『これならわかる中国語文法：入門から上級まで』東京：NHK出版。  
張黎(2023)「意合法」日本中国語学会[編]『中国語学辞典』28-29. 東京：岩波書店。

【補記】脱稿直前に白帝社より『24回』第6刷(2024年3月26日)の献本を頂戴した。通見したところ、第5刷からの改筆は行われていないようである(注2参照)。